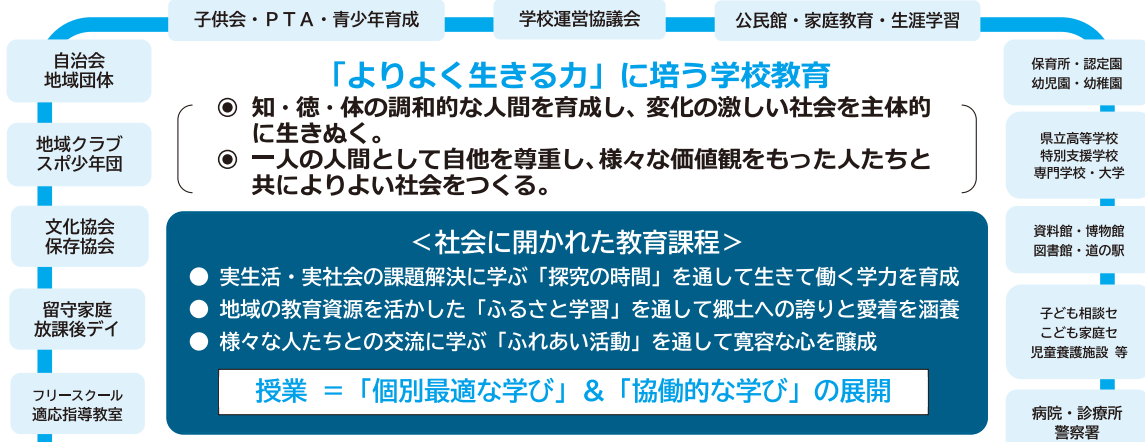


《いびがわの子》「夢をもって、共に生きる。」

<地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）>



【カリキュラム・マネジメント】 = 「教育課程」の改善・充実
 (1) 育成を目指す資質・能力に基づき、教科や学年の枠を超えて学びを組み立てる。
 (2) リソース（ひと・もの・こと）を効果的に組み合わせることで教育活動の質を高める。
 (3) 教育課程の編成・実施・評価を通じて、教育目標との関連を確認し、改善を図る。

【「認知能力」と「非認知能力（学びに向かう力・人間性等）」をバランスよく育成】

<ul style="list-style-type: none"> ○ 数値化できる能力 ・ 知識、読解力、計算力、記憶力等、学習の基盤となる能力 	×	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特性、自己抑制力、意欲、自信、協調性、粘り強さ、好奇心等 ・ 子どもの努力やプロセスを具体的に言葉で褒める。 ・ 失敗を責めず、「どうすればよかった?」と一緒に考える。 ・ 年齢に応じた小さな責任を任せる。
---	---	---

【いのちを大切にできる教育】 ◎共感的理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育成

- ・ 互いをかけがえのない存在として尊重できる、仲間との関係づくりに取り組む。
- ・ 限りある命、命の尊さ、命のつながり、生きる喜び等に気付くことができる体験活動を工夫改善する。
- ・ 児童生徒、保護者の悩みや不安に寄り添う教育相談に努め、必要に応じて関係機関と連携する。
- ・ いじめは「いつでも、どこでも、だれにでも、何度でも起こりうる」という認識のもと、組織的な早期対応に徹するとともに、いじめが起きにくい学校生活を児童生徒と共につくる。

【今日的な教育課題への対応】

- 将来への夢や希望を育むとともに、社会の一員として自立し、自分らしい生き方を実現するための力を身に付ける【キャリア教育】を推進する。
- 心身の健康状態や安全及び体力向上等への意識を高め、自ら考え、判断して行動する力を育む【健康教育】の充実を図る。
- 生成AIを含め、デジタル社会で生きて働く情報モラルに関する資質・能力を育成する【デジタルシチズンシップ教育】を推進する。

【危機管理体制の確立】

- 非常変災時等、様々な危機について全教職員が見識をもち、緊急時において、「命を守りきること」を最優先にした対応（救急、警察への通報、子相への連絡等）を躊躇なく行い、迅速な報告と情報共有により組織的な動きができる体制を確立する。
- いじめ・自殺、不登校等の未然防止と早期発見・早期対応に向けて、日頃から児童生徒の状況を共有し、事案発生時には組織で迅速かつ丁寧な対応が図れるようにする。

今回は、これからの揖斐川町の学校教育の在り方について、教育委員会としての方針を紹介します。
 目指す子ども像を「夢をもって、共に生きる。=いびがわの子」としました。ここには、子どもたちが将来を見据え、進むべき方向をしっかりともち、決して自分を見失うことなく生きていくことができるよう、一人一人に夢や希望を育んでいく必要があるという考え方を示しました。
 そのうえで、言葉や生活文化、ものの見方や考え方等の違いを乗り越えて、だれとでも分かり合い、互いを尊重しながら、共に力を合わせてよりよい社会や生き方を求め続けていかなければなりません。そうした子どもたちが育つ学校教育を、皆さんと一緒に創っていきましょう。



第5回 学校教育の在り方審議会(各委員による意見交流)
これからの揖斐川町に必要な教育環境について

今年度初めてとなる第5回学校教育の在り方審議会を4月28日(火)に開催しました。

新たに、山本 結委員(揖斐川町幼児園保護者会代表)、岸 啓司委員(揖斐川町PTA連合会長)の2名を迎え、答申策定に必要な基礎資料の確認等を行った後、「これからの揖斐川町に必要な教育環境について」をテーマに委員間で意見交流をしました。

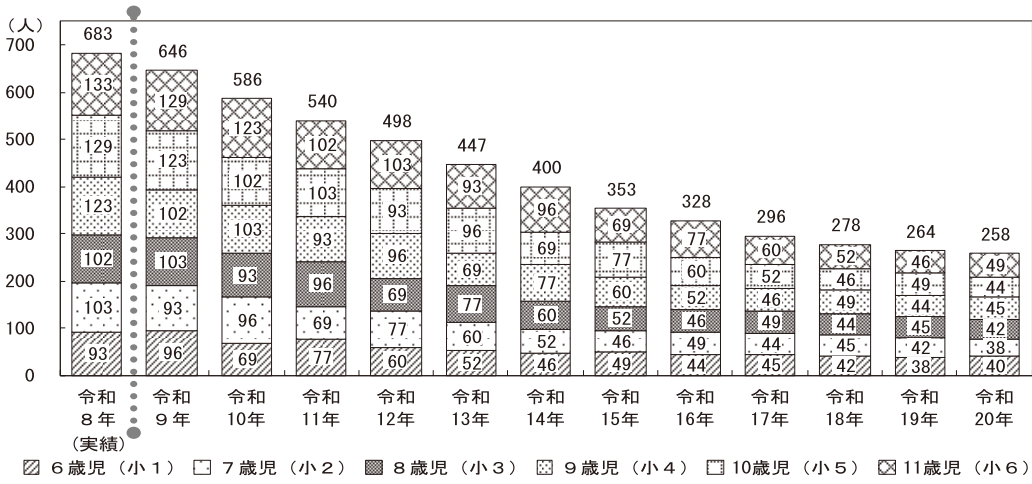
行政視察・学校訪問

- ① 校種間連携……………5月29日(金)
飛騨市学園構想・飛騨市教育委員会
- ② 義務教育学校……………6月24日(水)
岐阜市立藍川北学園
- ③ 小規模校連携……………6月26日(金)
山県学園構想・山県市教育委員会
- ④ 大規模学校統合……………7月2日(木)
郡上市立大和小学校

答申策定に必要な基礎資料

《町全体の児童生徒数の推計》

令和7年度に出生した子どもが中学校に入学する令和20年度までの各年4月1日現在の児童生徒数を推計しています。(この資料のほか、「スクーリングバス路線図」や「学校施設の基本情報」等についてもホームページにて紹介しています。)



委員による意見交流

・当然、いつか学校統合が必要な時代は来る。例えば義務教育学校にすることで、思い描く理想の教育の在り方に大きく近づけることも可能になると思われる。ただし、整備するためにはもっと多くの準備が必要ではないか。

・これから検討するうえで最も大切なことは、子どもたちが常に安心安全を感じる事ができる環境づくりだと考える。直接的なつながりやそこから生まれる信頼感、安心感がより子どもたちの関係性を深め、そして心の成長や夢を持つことに結びついていく。

・アンケート調査の結果を踏まえ、統合して学校規模を一定程度確保しながら、その中で1クラスあたりの人数を減らすことで一人一人に目を届かせるという方法もあるのではないかと。また、教育内容として、地域ごとに密着するような形で探究活動を行うことで、地域とのつながりも確保できるのではないかと。

・私は以前から統合して少しでも多い人数の中で学習できる環境がよいと思っている。スクールバスの運行回数も見ながら、既に学校統合は始まりつつあると改めて感じたこともに、現状でスクールバスの交通網がこれだけあるのであれば、今の状態から統合する際にも移動手段でそれほど困ることもないと思うので、大きな問題ではないように感じた。

・学校教育の在り方の検討にあたっては、子どもの育ち、成長、発達にとってどうなのかということやベースに、出された意見も含めた様々な要素をすべて盛り込み、そしてすべて実現させることができれば理想ではあるが、やはりそれは難しく、選択する必要がある。

・ここで出された意見が無駄になることがあってはならない。できる限り集めた願いや考え、工夫についてはしっかりと盛り込みつつ、揖斐川町ならではの言うことができる道筋を見つけていくことが必要になる。

・地域性や人と人とのつながりの重要性といった検討のベースは皆さんの中で共有されてきていると思われる。今後は、本日説明があった現状の姿や、それぞれの問題を補いうる様々な方法といった多くの要素を加味して、この揖斐川町の地域の豊かさや人々のつながりを生かした教育の在り方を重点的に追求していく、という方向での具体的な提案を目指していくことになる。(委員長)

(揖斐川町学校教育の在り方審議会)

